

## 南アフリカ 南半球のリンゴ輸出をリード

[FreshPlaza 2025年5月28日](#)

園芸業界団体ホルトグロ(Hortgro)のデータによると、南アフリカは南半球の主要なリンゴ輸出国としてチリを上回っている。第22週(5月末)までで、南アフリカの輸出量はチリを260万箱(16%)上回った。

南アフリカの有利性において、地理は戦略的な意味を持っている。同団体の農業エコノミストであるピーター・ステイン・デウェット氏は、「南アフリカは、チリに比べてヨーロッパ、中東、アフリカに近い」と述べている。この近接性により、輸送時間が短縮され、輸送中の損耗のリスクが最小限に抑えられる。さらに、強力な植物検疫措置により、南アフリカは収益性の高い市場を維持し、拡大することができる。また、同国の多様な品種の選択肢は、その市場サービスの効率性を高めている。

南アフリカでの投資の増加と、天候に起因するチリでの収量の低下が同時に起っている。2008年以降、南アフリカでは投資が増加し、栽培面積の拡大、品種の改善、密植栽培や保護ネットの利用等の生産技術の進歩が促進されている。この投資により、過去8年間でリンゴの生産量は30%増加し、輸出量を押し上げた。一方、世界リンゴ・ナシ協会のデータによると、2025年のチリのリンゴの収穫量は2016年より44%少なく、輸出量は32%減少すると予測されている。

潜在的な課題にもかかわらず、デウェット氏は楽観主義を指摘し、「首位の地位が保証された訳ではないが、中期的に生産量と輸出量がさらに成長しており、南アフリカはリンゴ産業について非常に楽観的である」と話す。南アフリカは、首位に立つ果実供給国としての評判を築いている。

依然として、気候変動が収量の差に影響を与えているなどの課題はある。また、ケープタウン港の物流上の問題もあるが、港湾の管理と設備の改善により、ストレスの程度が軽減されることが期待されている。

出典: [Freight News](#)

## 米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大

[米国農務省動植物検疫局通知 DA-2025-17 2025年5月29日\(30日送信\)](#)

件名: APHISはカリフォルニア州のカンキツグリーニング病(HLB)検疫規制地域を拡大

宛先: 州、部族及び準州の農業規制当局担当官

米国農務省動植物検疫局(APHIS)は、カリフォルニア州食品農業局(CDFA)と協力し、*Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病(黄龍病; HLB)の同州内の検疫規制地域を拡大し、これは直ちに発効する。拡大される地域は、オレンジ郡フットヒルランチ地域とミッションピエホ地域のを合わせて26.69平方マイル、リバーサイド郡リバーサイド地域の11.30平方マイル及びサンディエゴ郡バレーセンター地域の85.19平方マイルである。

これらの措置は、CDFAが2025年3月24日(オレンジ郡)、4月18日(サンディエゴ郡)及び4月22日(リバーサイド郡)に定めた州内の検疫と並行して実施される。APHISは、オレンジ郡、リバーサイド郡及びサンディエゴ郡の住宅地から採取された植物組織サンプルからカンキツグリーニング病が検出されたため、この措置を講じるものである。この拡大は、2,761.85エーカーの商業的柑橘類園地に影響する。

APHISは、カリフォルニア州の検疫規制地域からの規制対象物品の州間移動について、連邦規則集第7編第301.76条及び連邦命令に概説されている保護措置を適用している。これは、HLBが米国内の非感染地域に広がるのを防ぐために必要なものである。

カリフォルニア州の検疫規制地域の具体的な変更内容は、[APHISカンキツグリーニング病ウェブサイト](#)に掲載されている。APHISは、おってこの変更を連邦官報に掲載する。(連絡先等省略)

(訳注: 1平方マイル=約2.59平方キロメートル、1エーカー=約0.405ヘクタール)